

山寺の四季 ― 夏

夏になると、山寺の内宮に続く石造りの道沿いに生い茂った木々が、夏の厳しい暑さを遮ってくれます。詩人松尾芭蕉（1644 年～1694 年）が、彼の最後の作品である旅行記奥の細道で詠った蝉の声が、山腹に響きます。山形県はサクランボの生産量が日本一で、山寺に向かう道端でサクランボを販売している人を見かけることがあります。

山寺の夏の最大の一般公開イベントは磐司祭です。これは、寺を建立した僧侶円仁（794 年～864 年）に、山寺が立っている土地を寄付した伝説的狩人磐司磐三郎（生没年不詳）の功績を讃える祭りです。伝説では、磐司は円仁に出会った後に、この辺りでの狩りを止めたそうです。山の動物たちは 2 人の前に集まり、喜びに満ちて踊りました。磐司祭で披露される獅子踊りは、この時の様子を表すものです。